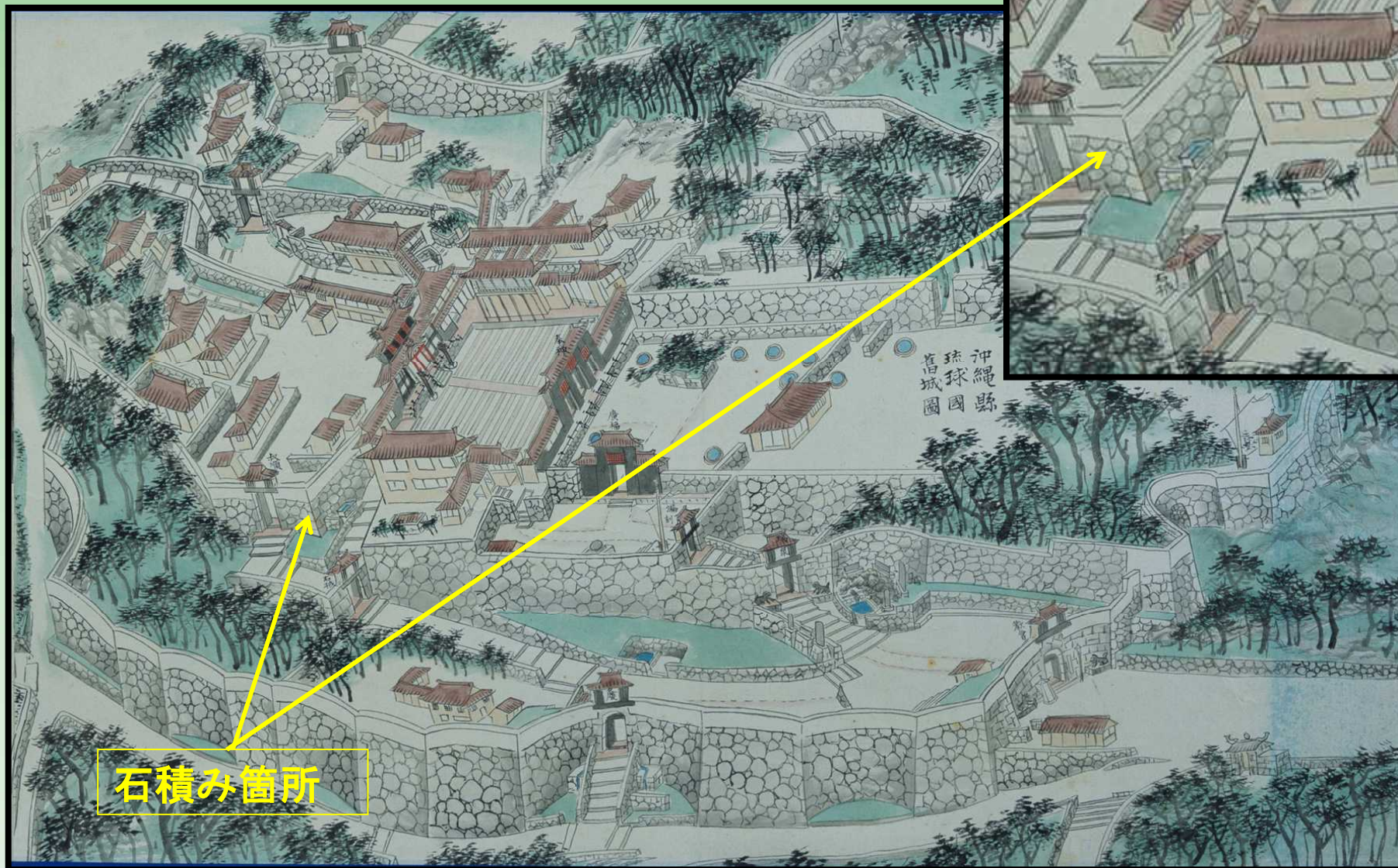


首里城公園は正殿裏の御内原(おうちばる:国王と家族と女性の空間)を含めた復元整備を進めており、現在、正殿北側の石積み復元整備を行っています。

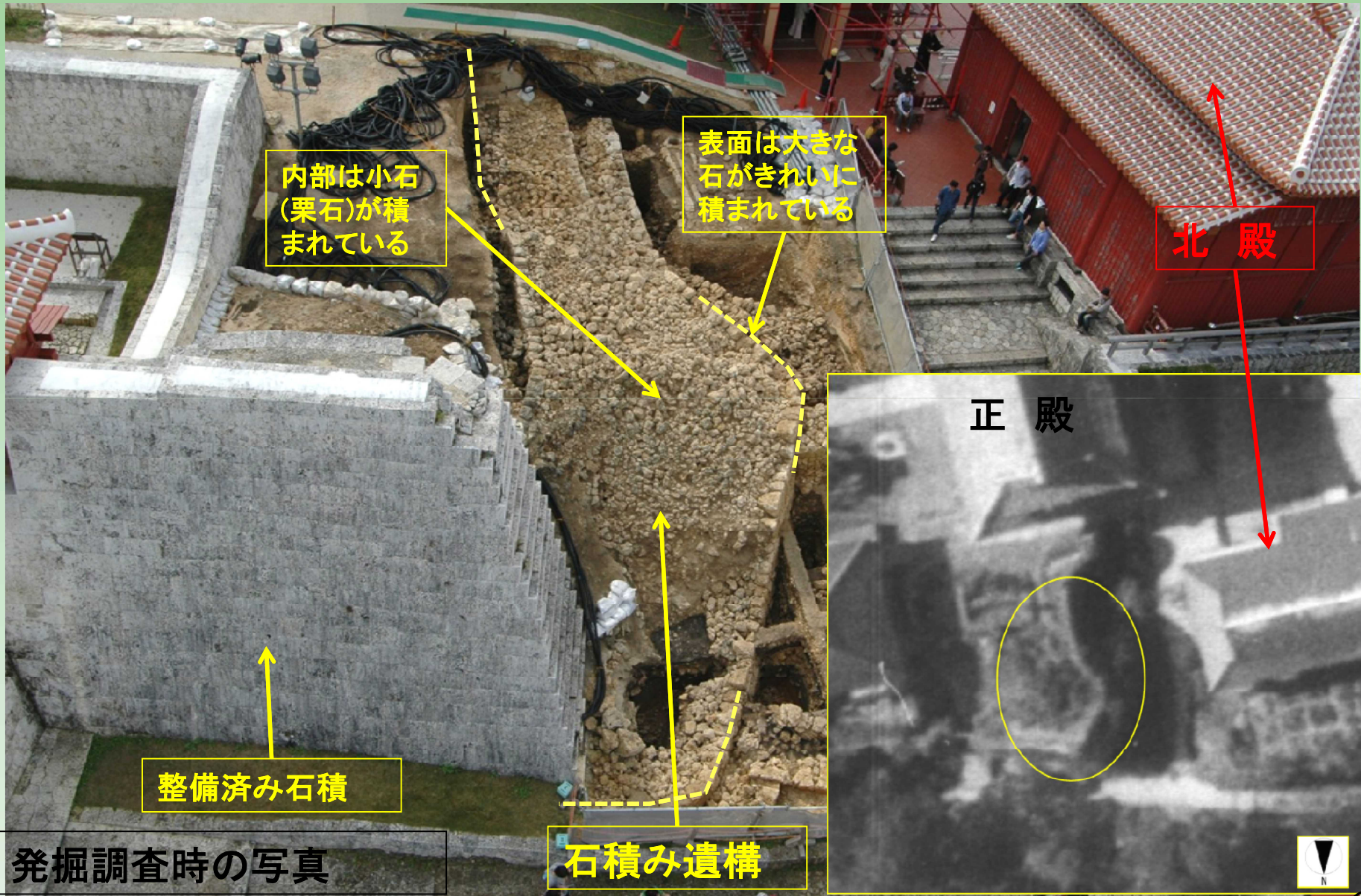
未開園(整備中)
範囲



明治期に描かれた「沖縄県琉球国旧城図」では、折れ曲がった石積み表現されています。



右は沖縄戦直前(S20(1945).4)に撮影した航空写真。発掘調査で検出した石積み遺構と同じ形、折れ曲がり方をしています。



遺構

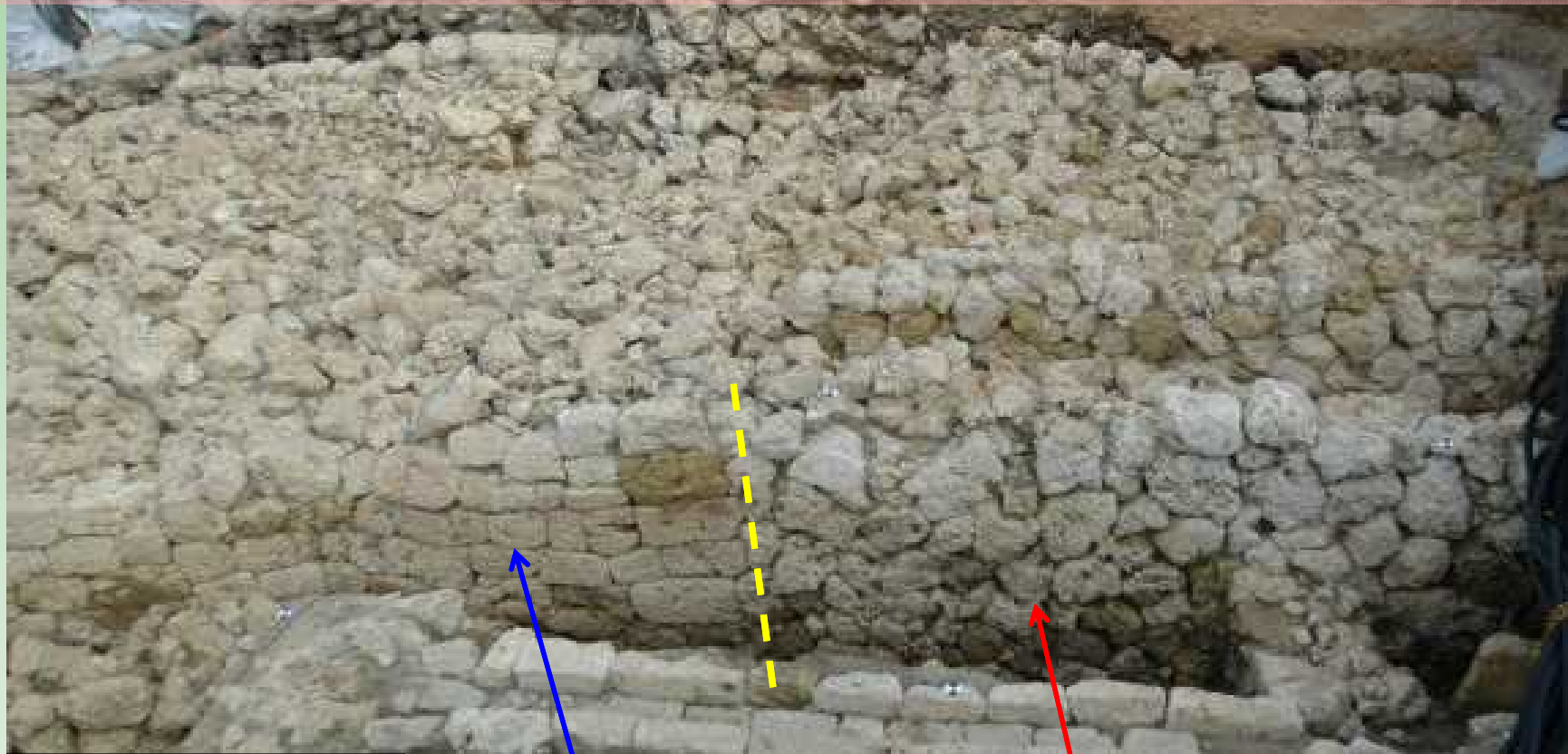
遺構とは、昔の都市や建造物の形や構造を知るための手がかりとなる残存物です。今回の石積も遺構が残っていることが確認できました。この遺構や古写真、古図等をもとに設計を行っています。

栗石

石積遺構の写真を見ると、表面は大きな石が積まれています。内部は栗石(ぐりいし)と呼ばれるこぶし大～人の頭程度の小さな石が積まれています。
・本土では土、砂を用いることから沖縄だけの特徴です。

遺構を見ると、石積表面(大きな石)のアウトラインがはっきり残っているのがわかります。

これは④の今回の石積遺構を横から見た写真です。
積み方が途中より変化しているのがわかります。
これは、昔、地震等で崩れた部分を修復したと推測され、増改築
工事されたなどの時代背景を知る手がかりとなる場合もあります。
今回の石積はこの特徴(積み方の変化)を守り、復元します。



発掘調査時
石積遺構写真

布積み

相方積み

石積みは原始的な「野面積み」→「布積み」→「相方積み」と高度な方法へ発展した

天に向かうかのような、とがった角石。琉球の美意識によるデザイン、邪気を集め空中に逃がす、等諸説ありますが、はっきりとした目的はわかりません。



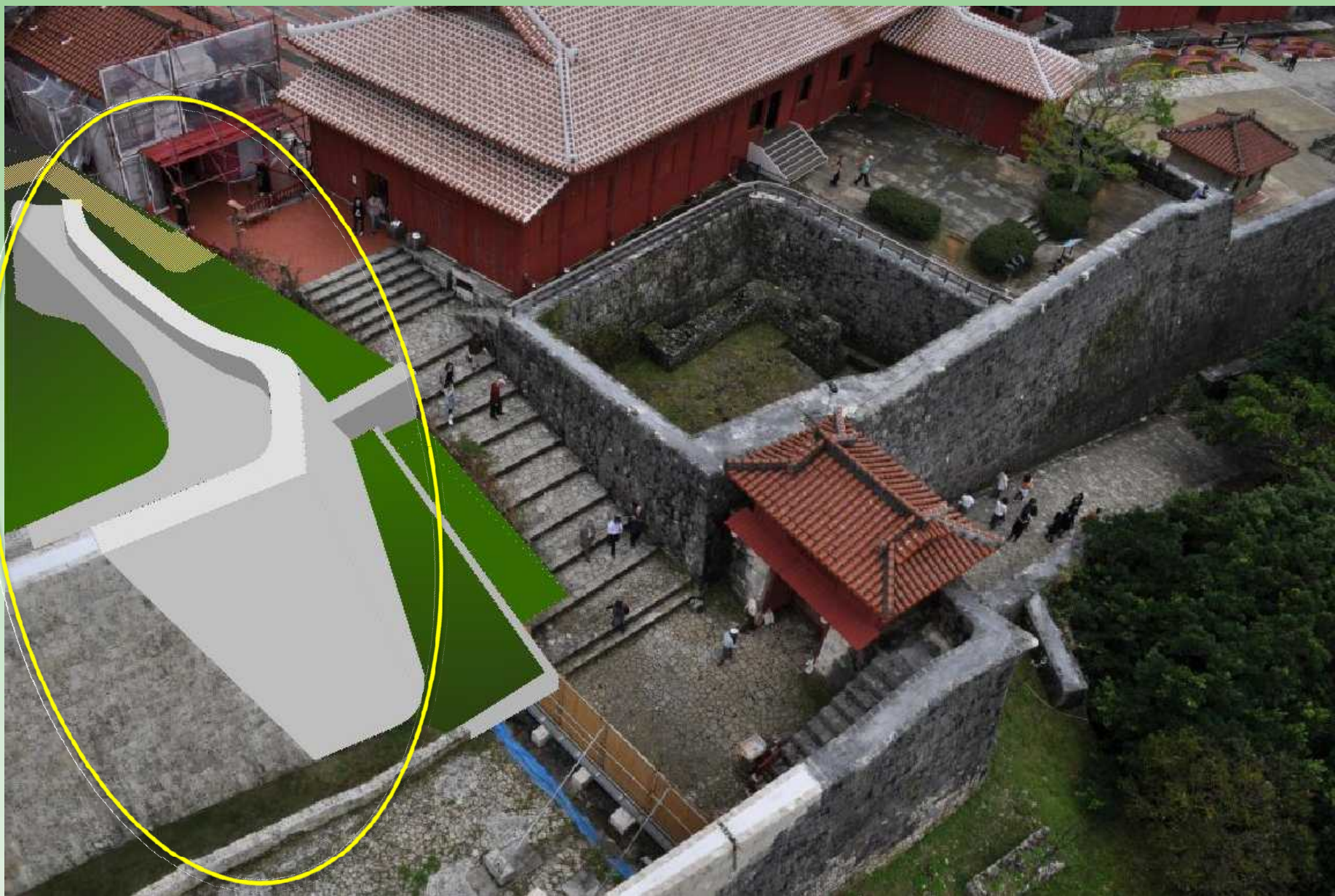
正殿側

施工前



復元完成予想です。平成24年12月完成予定。

完成



いつか見に来て下さいね。(^-^)